

春岡村の伝説

～地名の由来～「七里村」は七つの村が合併したから

いつの時代も市町村の合併はそれぞれの主張や思惑があって大変です。明治中頃まで、全国の町や村の7割はその戸数が100戸以下で、自治制を行うには小さすぎました。そこで、ひとつの町や村が300戸～500戸になるよう、明治23年に全国の町や村の大合併が進められました。膝子村区域では膝子村、東宮下村、大谷村、猿ヶ谷戸村、風渡野村、東門前村、新堤村の7つの村を合併させることになりました。しかし、旧大宮市の中で新村案で（仮）深作村（のちの春岡村）と（仮）膝子村（のちの七里村）は合併の協議がまとまらず、とりあえず「組合村」として自治を進め、合併の道を探りました。

膝子村区域のそれぞれの村の言い分は、というと、大谷村は、自分たちの地域は高台にあるのに、低地で用排水路等の河川が多く、橋がたくさんある膝子、東宮下と一緒に村になったら、その土木費用を自分たちも負担するのは負担が重すぎる、と主張しました。また、猿ヶ谷戸村は、位置的にも費用負担にしても、（仮）膝子村より新村の大砂土村と一緒にしたいと引きません。県はこれでは合併は無理とみて、とりあえず大谷村に役場を置き、「大谷村外六村組合」と名付けました。ところが、組合名に「大谷」と付けたことに、村の規模が大きい膝子村はもとより、他の村からも異議が強く、とても村の自治を円満に進められそうにありません。そこで、役場の位置は大谷村のままで、組合村の名前を「膝子村外六村組合」と改称することにしました。

結局、23年後の大正2年になってようやく合併気運が高まり、村名も新たに「七里村」として出発することになりました。

「七里村ト称セントスルハ七ヶ村ヲ合併シタルノ実ヲ表セントスルニ由ル」（参考・大宮市史4）

（東三番街 平山由喜）